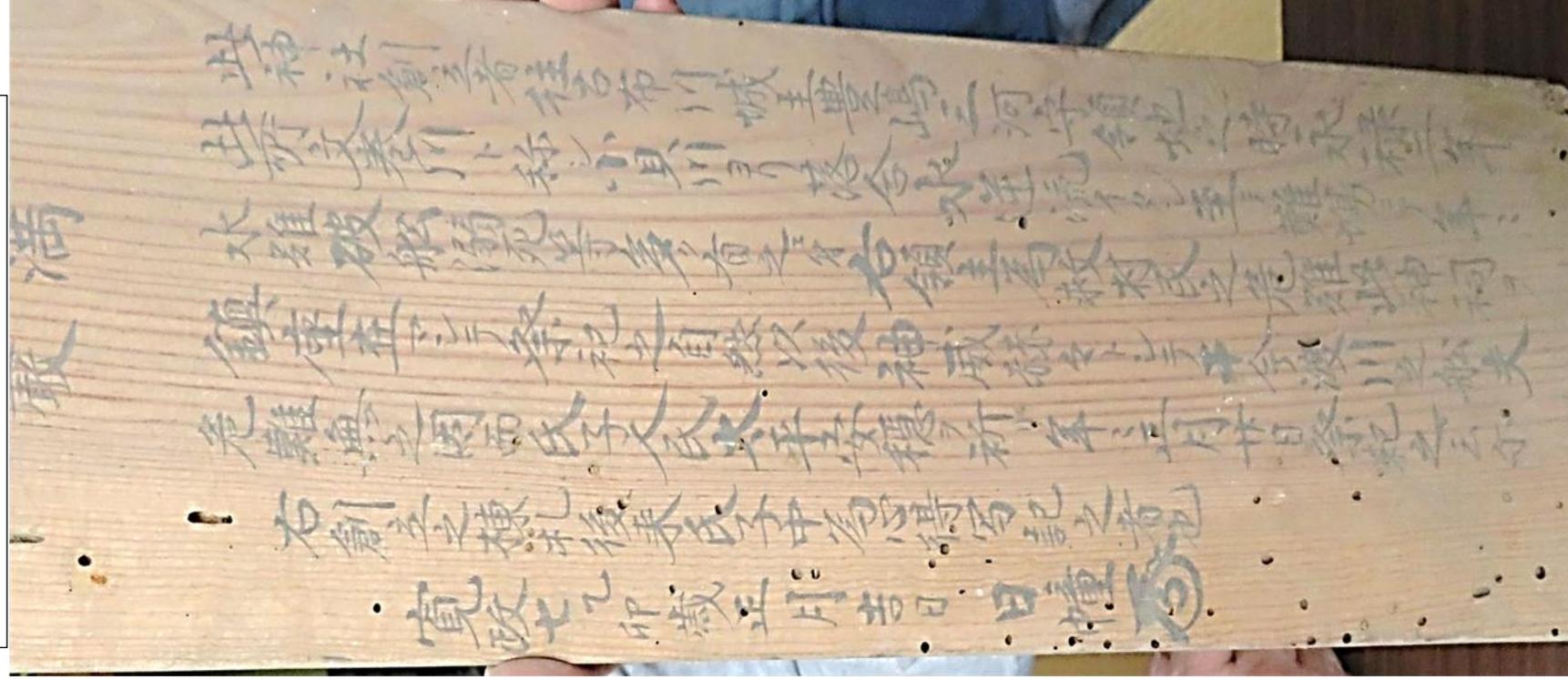


別冊資料1 押付「水神社」棟札



上部は朽  
ちて文字  
不明



- 永祿三年・・・一五六〇年
- ・・・不明
- 寛政七年・・・一七九五年
- 日幢・・・徳満和尚

此神社創立者往古布川城主豊嶋三河守領地之時永祿三年  
 此の所文卷川ト称シ小貝川ヨリ落合水逆流イタシ至テ難場ニテ年々  
 水難破船溺死等多ク有之□付右領主為救村民之危難此神祠ヲ  
 鎮座在マシテ祭祀之自然以後神威赫々トシテ□今渡川之船夫  
 危難無之□而氏子人民太平安穩ヲ祈リ年々正月廿日祭祀之云尔  
 右創立之棟札後末氏子中為心得写記之者也  
 寛政七年乙卯歳正月吉日 日幢

別冊資料2 飯沼



国土地理院「治水地形分類図の画像・龍ヶ崎」の部分

別冊資料 3-1





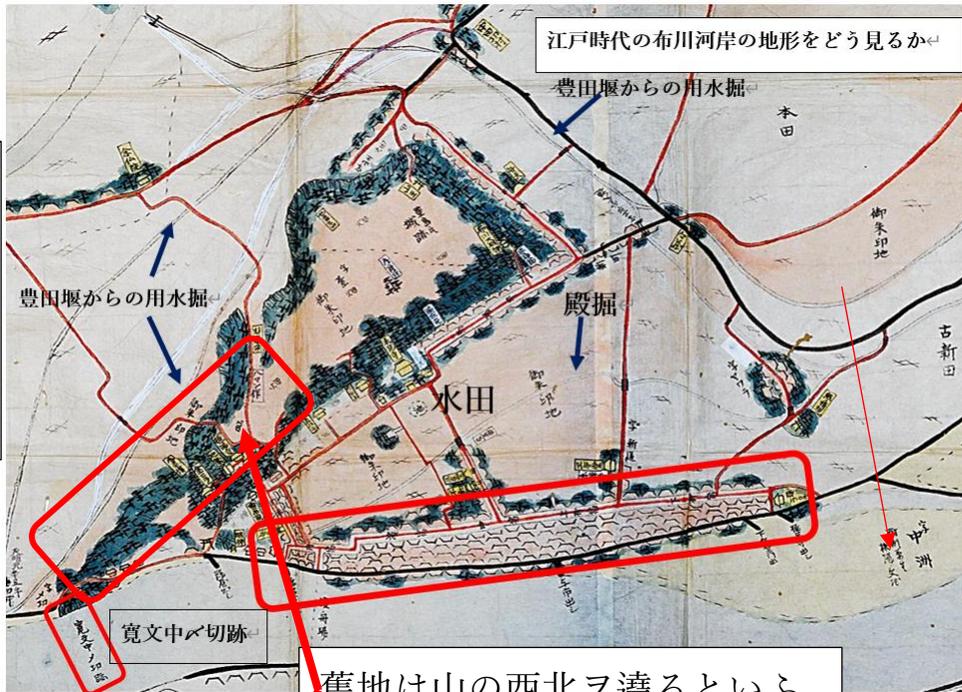
『利根川図志』卷三、「布川」の項に「舊地ハ山の西北ヲ遶るといふ」

※「遶(めぐ)る」周囲を取り囲む。取り巻く。

布川 古ハ布川と書きて豊島家ふゆま有あ千葉家ちやう不ふ屬ぞく一いっ數軍功かずぐんこうあり  
り一いっ常總軍記じょうそうぐんき卷十五くわんじゅうご千葉家ちやう濫觴らんさう條云じょうぐん滑川龍臺くわくせんりゅうたいの織田左京おださけい  
男頼定を攻落こうらく一いっ檢見川けんけんがわの伊北いきた大學だいがくを落らく一いっ生實頼純せいじつねじゆんの家督けとく次京さいけい  
り安食上下利根じやうげりきねを銚子しやうしより海上かいじやう、匝瑳さつさ香取かうとく千葉ちやう一いっ幡ばん北相きたさう馬まを取と取と  
寺臺大倉小見川こみがわ東米野井とうみやのい長沼ながぬま有あ川がわ横須賀よこすか旗はた下した一いっ族最多しゆた一いっ助崎すけさき  
馬加大須賀おほすか圓城寺えんじやうじ村田山むらたやま長部ながべ森戸もりと神崎かみさき藤崎ふじさき餃高ぎやうたか鎬木ほのき石橋いしはし小石こいし  
橋廣岡ひろおか青木あおき伊能いのう尾金田おのうら林長はやし澤さわ印西いんせいハ口はくちを限かぎ旗はた下した家け臣しん影かげく  
四上かみ句ご累かさね總錄そうろく卷五くわんご武州ぶしゆ村岡むらおか河原かわら軍事ぐんじ條云じょうぐん天文てんぶん廿二年にじふにねん癸丑みづのえ  
守谷布川築田きよた一いっ色いろ小山こやま近藤ちかどう等の味方あじまがたを待受けまちうけ云い龍崎りゅうさき土つち  
岐家きけ不ふ奥山おくやま砦とりでを奪うばハれ一いっ不ふ因よりて援兵えんぺいを乞こへども果さはる  
時常陸國河内郡足高ときひらなる岡見おかみ中務なかつぶ必かならず輔すけの長臣ながしん栗林くりばやし下總守したすべし義  
長の計はかり不ふ因よて岡見家おかみけ不ふ屬ぞく一いっその後そののち小田原おだわら北條家きたじょうけ不ふ屬ぞく一いっその  
落城らくじやうの時とき同おなく家絶けがたえり鎌倉九代後記小田原おだわら籠城りゆうじやう人ひと  
布川ふがわハ一いっ帯おびの丘山かみやまを背そむふ一いっ前まへハ利根川りきんがわ不ふ臨かみみて街衢まちかどを列ら  
人烟輻湊にんげんぷくそう一いって魚米いそめの地ちと稱なづする不ふ足たりれり舊地ハ山の西北ヲ遶るといふ殊こと

舊地ハ山の西北ヲ遶るといふ

別冊資料5-1



舊地は山の西北ヲ遶るといふ

別冊資料5-2

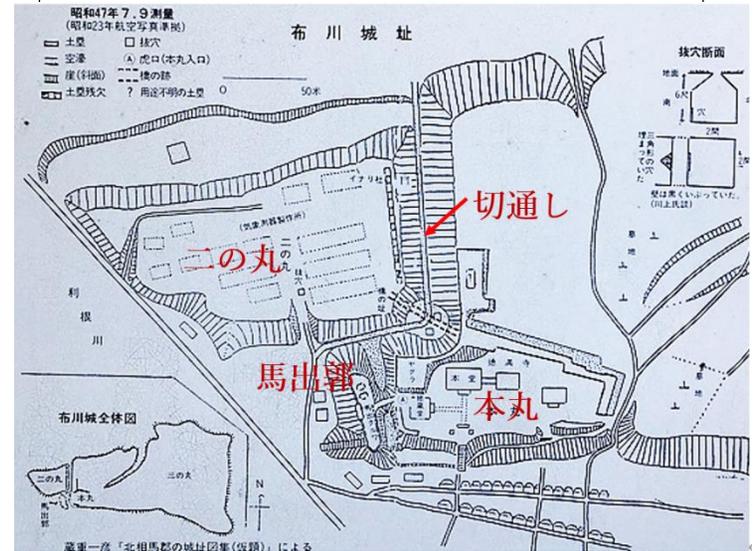


迅速測図

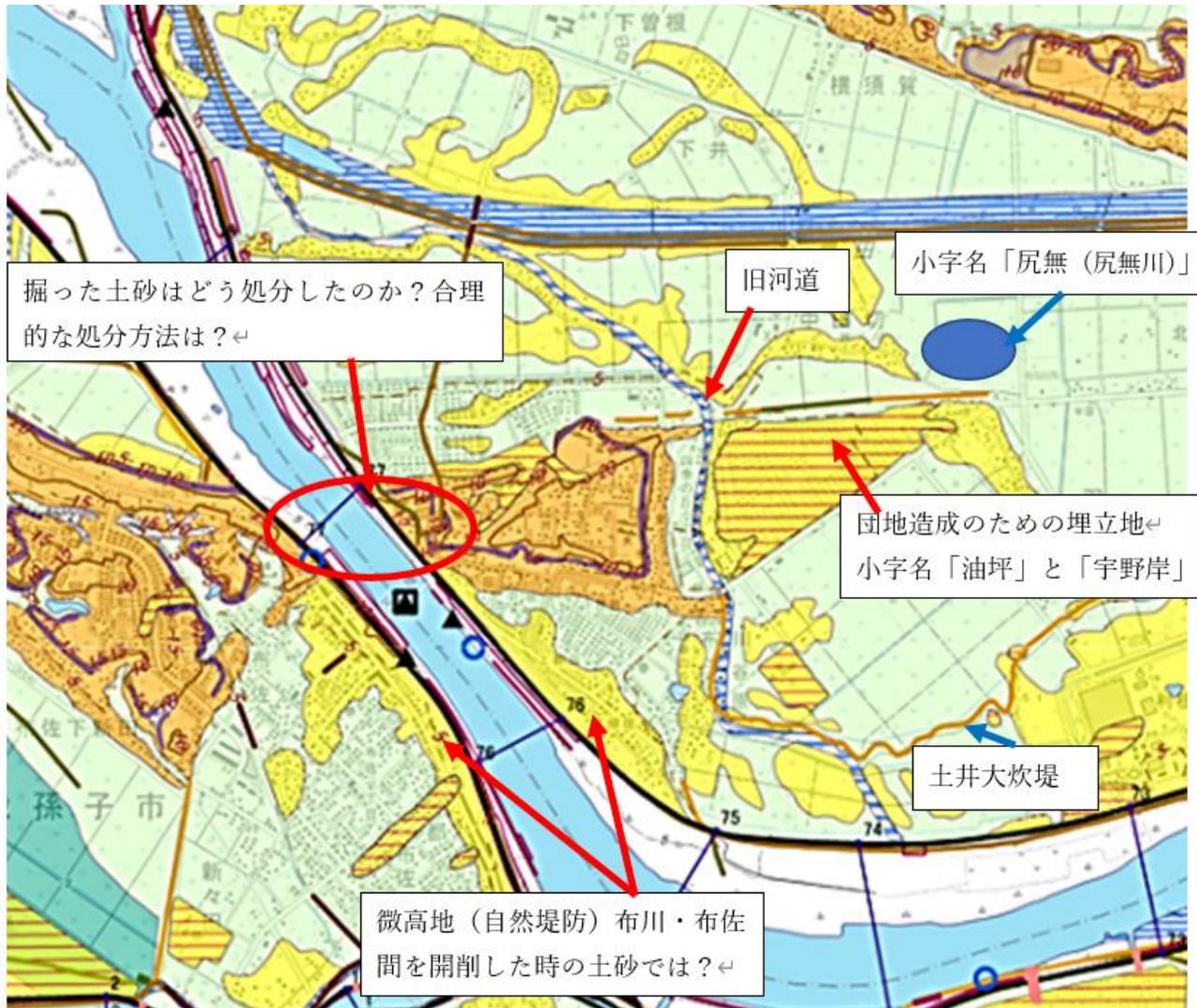


昭和3年測図、昭和5年発行・大日本帝国陸地測量部 竜ヶ崎部分

別冊資料5-3 布川城址



- ① 等高線の間隔が他の場所に比べ狭い
- ② 山すそ近くまで水田として活用されている



国土地理院「治水地形分類図の画像・龍ヶ崎」の部分